



想像すること

図画工作科顧問校長 村櫛小学校 今田 徹

夏季研修会への御参加ありがとうございました。私は、1年生の題材である「おはなしから生まれたよ」に取り組みました。児童の側に立って物語から想像した世界を表す活動です。物語から場面をイメージすること、それを表現することの難しさを感じました。

図画工作科の学習は、自らの感性や想像力を働かせながら、資質・能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、作り出す喜びを味わうものです。夏休みの体験から「想像する」ことについて少し考えてみました。

夏休みに親戚が集まる席で2歳の子が人形を使ったまごとしていました。人形を我が子に見立て、さまざまな商品を購入していきます。彼女には、コンビニエンスストアの情景が想像されているのでしょうか。会計の場面になります。「ぺいぺいでおねがいします。」と携帯に見立てた容器を持ってピツとやります。想像力とは、目の前に存在しないことを頭に思い浮かべる能力です。人生の中で培ってきた知識や経験を元に、物事をイメージする力でもあります。彼女は、2年間の人生の中で培ってきた経験をもとに買い物の場面を想像し、身の回りにある様々なものを見立てて楽しんでいるのです。「想像する」「イメージする」ことは、体験や経験で得た知がなければ、見えない物事を多分こういうものだろうと入ってきた情報を頭の中でつないで考えることはできないのです。



「めつきらもつきらどおんどん」より

連休を利用して、奈良へも足を延ばしてみました。奈良には、有名な神社仏閣が多くあります。その壮大な建物の中には、さまざまな神様や仏様が祭られています。その力強い姿や形、煌びやかな色に心奪われます。これも古来の人々の想像力の賜物です。

与えられたものやことから、「感性」を働かせて、様々なことを「想像」し、自分なりの「イメージ」を持ち、そこから新たな「発想」をして、オリジナルな表現を「創造」する。とても大変なことを図画工作科の学習の中で行われていることを指導者は理解することが必要です。子供の想像力や創造力を養うためには、子供の感性や作品を否定しないように心掛けなくてはなりません。子供にとって創作活動や作品は、自分という個性を表に出すための重要な方法の一つです。作品を否定することは、子供の自分らしさや人間性を否定することと同義であるにとらえなくてはなりません。

国語科の読解や算数科の文章問題、理科の実験の予想や社会科の人々の様子など学習の中で、子供たちが想像力を発揮しなければならない場面がたくさんあります。図画工作科は、「想像力」を大いに育てる教科であることを意識してほしいと思います。



「わだば〇〇になる」

図画工作科顧問校長 飯田小学校 生熊 周

去る8月2日(水)に、市教育研究会第2回研修会(実技研修会)が、飯田小学校を会場として開催されました。本校で行われたのは、一版多色刷り版画です。御存知のように版画とは、彫刻や細工等によって版を作り、インクの転写・透写等によって複数枚の絵画を製作する技法です。大きく、凸版画、凹版画、平版画、孔版画等の種類があります。小学校で主に扱うのは、木版による凸版画です。彫刻刀によって板を刻む作業は、鉛筆画のように、消しゴムで消すことはできません。それ故、子供たちにとっては、苦手意識にもなり得る学習活動です。がしかし、よく観て真剣に取り組むことで、出来上がった作品には、ダイナミックなものやユニークなものが多くみられるのも特徴の一つです。また、刷りの段階では、同様の構図で多様な色彩の作品ができあがることも特筆すべき点でしょう。



『花矢の柵』(部分)
棟方志功
神奈川県立近代美術館蔵

棟方志功(むなかた しこう)を御存知でしょうか。棟方は、明治から昭和の時代に活躍した青森出身の版画家です。ほぼ独学で版画の技術を学び、独特の伸びやかな表現を得意としていました。棟方作品に登場する事物の多くは、必ずしも形がとれているとは言い難いものですが、そこには「作り手の魂」とでも言うべき迫力と情熱を感じることができます。

それに似たエネルギーを、子供たちの版画作品に感じることがあります。それは、何度も描いたり消したりした線ではなく「思いを込めて勢いよく進めた線」であり「枠から大きくはみ出しつつ、しなやかに伸びゆく色」です。これこそに命が宿るのだと思います。

私たち教師は、時として作品の評価者となります。表層的な形や色、スキルだけでなく、制作の過程に込められた思いまでも受け止められる指導者でありたいものです。棟方は、ゴッホのひまわりに感銘を受けて「わだば(私は)日本のゴッホになる」と画家を志し、その後「世界のムナカタ」と称する世界的な芸術家となりました。我々の目の前にいる子供たちの中にも「わだば〇〇になる」とばかりに、様々な才能が眠っているはずで、そう思うと、日々の図画工作科指導に重責を感じつつも、子供たちとのかかわりが、何となく楽しみにもなってきましたか。



第2回研修会（実技研修）

8月2日（水）、飯田小、村櫛小、伎倍小、西気賀小にて第2回研修会を行いました。前半はワークショップとして版画、水彩画、鑑賞、ICTなどの実技研修を行いました。普段は授業をする側の先生方も子供たちと同じように表現活動を行い、その楽しさを味わったり、実技を通して指導方法の工夫を探ったりすることができました。

なお、今回の研修会では、運営委員の先生の外に、駐車場係、受付係を進んで引き受けてくださった先生方が多数いらっしゃいました。暑い中、本当にありがとうございました。

3・4部会「彫り進み版画で絵葉書をつくろう」（飯田小）

彫り進み版画の製作過程について説明を受けた後、思い思いの図柄で絵葉書づくりに取り組みました。始めに刷る色や重ねる色、版の置き方によって作品がどのように変わるかを味わいながら仕上げました。

後半は作品を見合ったり、作品票の在り方やペンの入れ方（フィードバック）を考えたりして話し合う活動を行いました。



5・8部会「ICTの活用について考えよう」（伎倍小）

授業で活用できるアプリについて紹介し、実際に作品を作りました。個人の作った作品の共有の仕方や子供同士の鑑賞の仕方について実践を交えながら研修を行いました。

紹介したアプリが実際の授業でどのように活用できるかを話し合いました。「個別最適な学び」「協働的な学び」の両面から今後のICTの活用について意見交換をすることができました。



1・6部会「1年生絵画表現～おはなしからうまれたよ～」（村櫛小）

絵画表現のつまずき「イメージをもたせること」のヒントになるようないくつかの題材の導入の工夫を紹介しました。

参加された先生方は、抽象的イメージの本、具象的イメージの2グループに分かれて本の読み聞かせを聞いた後、絵の具を使って描きました。鑑賞では、技法の工夫や構図の意図などを、参加された先生方同士で質問し合い、学ぶことができました。



2・7部会「6年生スチレン版画」（西気賀小）

正方形のスチレンボードにヘラなどで模様を描き、インクを付けて写しました。一回ごとにインクの色を変え版を回転させることで、1色では表せない不思議な模様を写すことができました。使用するインクの色や量を調節することで、様々な表現ができることが分かりました。グループワークでは、完成した作品を、みんなで見合いながら、工夫点や指導する際のポイントなどを話し合うことができました。

